



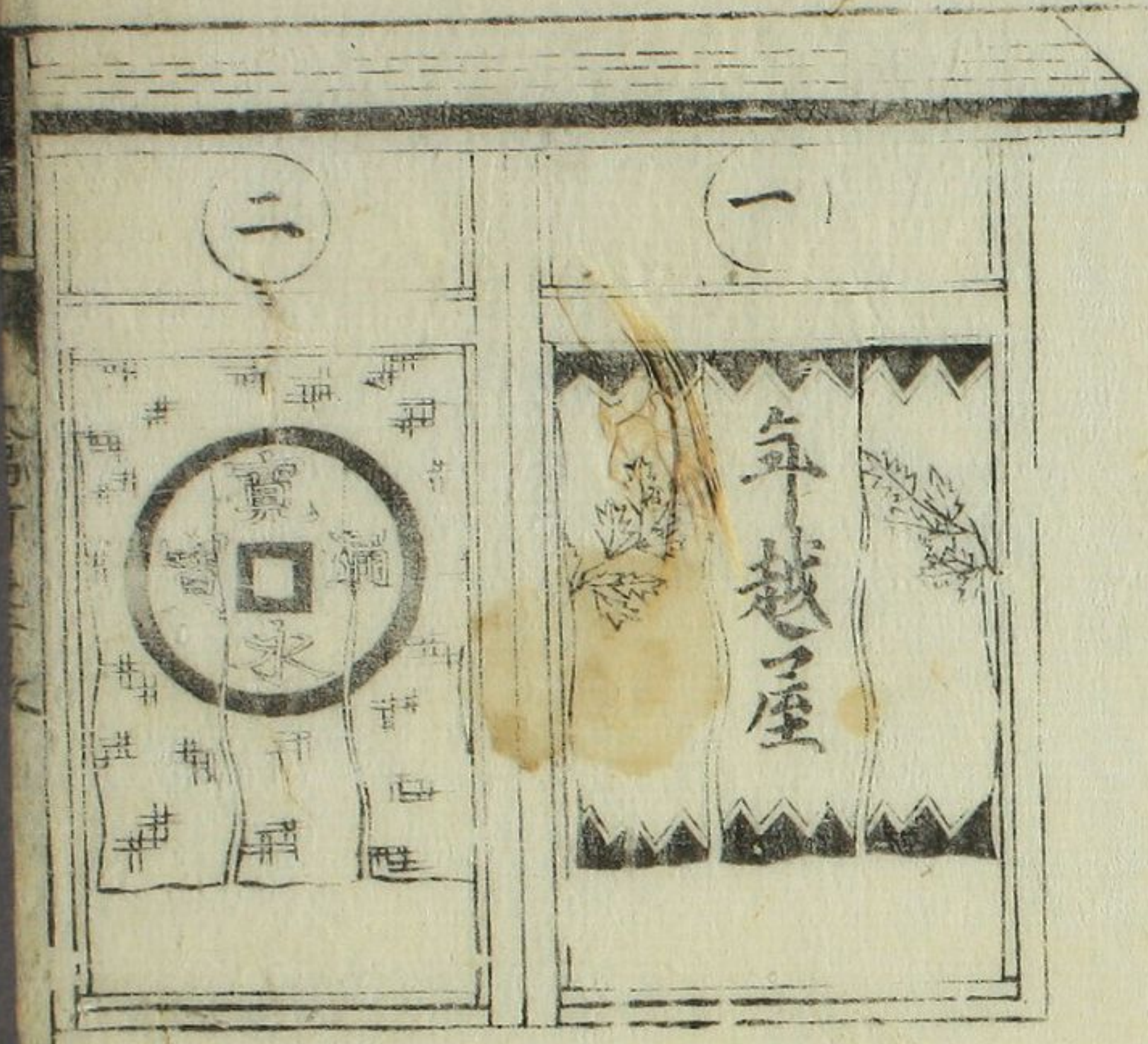
特 別  
14  
3157  
39  
(6止)



14  
2157  
39  
(62)

目年永代巻

目録



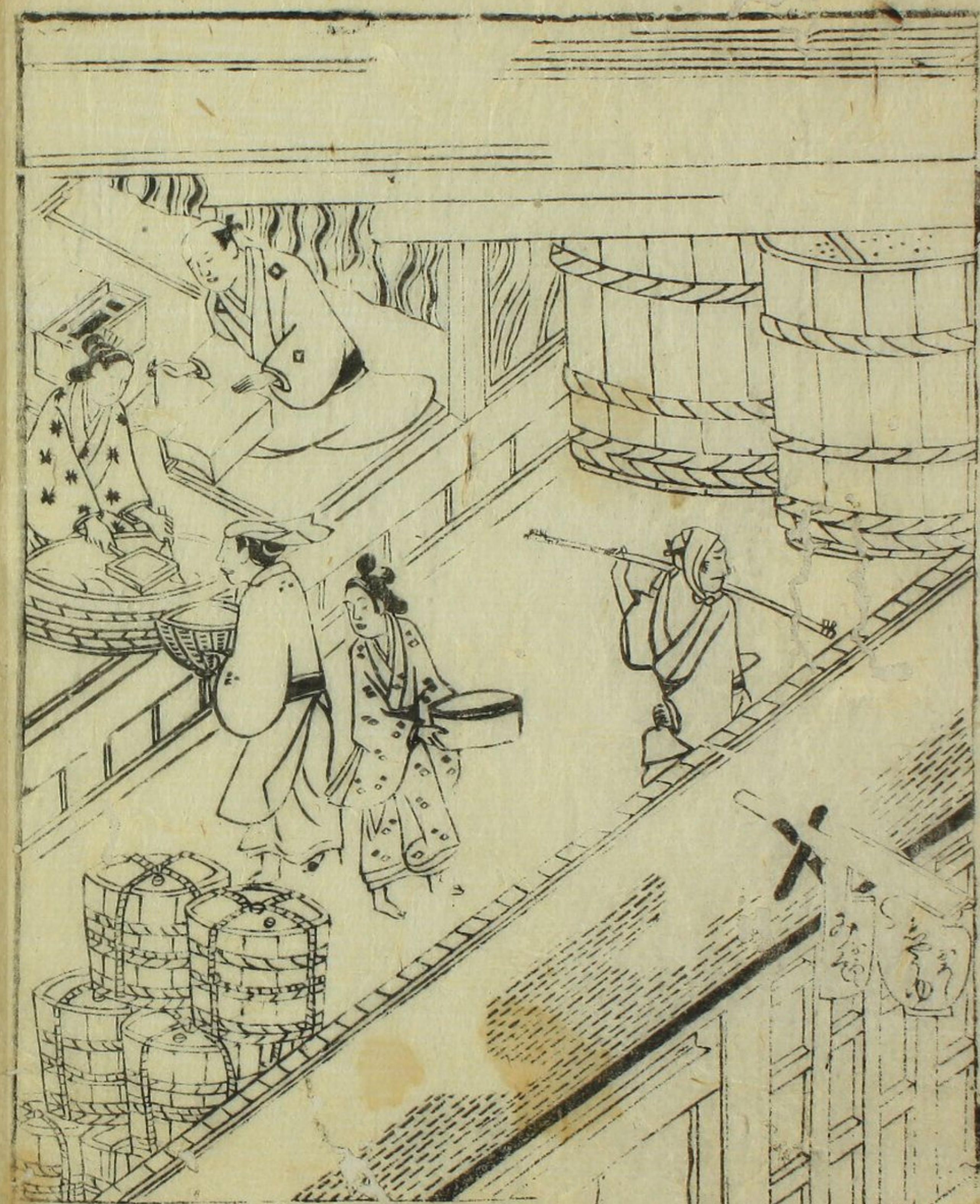
冬六

源の家の本門口の格  
致ふかたれを年越屋

見立と喜相子の利  
式外ふたれを年越屋







六和齋長者繪 卷一

三





こもえ何乃りたまへめくさるるなるもに所由をいり  
 らんそくも乃熱せもさばふいもく一昨年あつて物  
 ろが程とあつた天祥はくめを念にれありと望遠中  
 じひも修めぬごりもくはまもあひあつてあま  
 とあつた一編小支ぬたふあひ入く作勢乃現りく  
 魚おぼろくつりつり多り時おまもやへまうり出のま  
 ありまもあはれりあゆみの入の程いり下りありはれ  
 ぬりく乃あつたひの雨を雨めり首尾せぬ時いそれり  
 責ありはれ小肉乾のゆせいしり物あはれいあ  
 りそく入る乃備合れもくそんせとくく見とくUP  
 さぬらふまあふ乃あやめくしこくせいのあはれい  
 とんしそあつたふりあはれりあはれりあはれり一  
 色人あはれりあはれりあはれりあはれりあはれりあはれり









卯三

買主の世為心やとの時

毎年元日に書進して二十日後たどるに世に  
 せうりのころに自願に引取られたり果列場小刀  
 屋さくしと縁高人もい津いさるんかから置振り  
 せぬ大令物と扱とらうと縁文居場り治乃々々  
 夜織先程より六代えれと買主とく内証おあめ  
 進人もも又寛永年中より年々九込令部今  
 買主とせぬ人も又内証十で入置とぬ部  
 費用と時の若入封りすかこの世と縁縁は付内証  
 とりとせくおかり多人もも外よりいふく肉花を  
 せぬめいひい為く小とあふを引くわいひとせ  
 乃書進の三費六百圓あり一り二十八年のうらふひ  
 行敷りくはせ一年の書進のうらとて流小のうら

八百大指費圓れを指一子小とく一とく人せらる  
 世に引取らるるに治屋敷とく入る系部下  
 おありくくある乃種つんと一本と指八枚わつ  
 おはるやうのゆい又もすくささひ入置あつた  
 ちとせりくくも入る乃指費目つて入る又指費  
 といひんとと買主とるに治乃年六分乃外と  
 十六費用りうけしちび乃指あつたひとの男  
 けりおあつていさる乃指おろく書進せらる  
 さはくんとつてあつてうらふ人ももあつた  
 ありと縁治うくせらるる引あつたあつた  
 十乃指七のうらとせらるるく一かぬとく一門  
 お後して又書進おせらるるにせらるる  
 後ら何とせらるる業味と書進おあつたあつた



同より見んとおぼしき今世に人の地ありて又是と云ふ人少く  
ありては親王御記とて連たふらひのいふを頼かされり  
乃ちありては親王御記とて連たふらひのいふを頼かされり  
母を母ありては親王御記とて連たふらひのいふを頼かされり  
親王御記とて連たふらひのいふを頼かされり  
しる一處乃ち親王御記とて連たふらひのいふを頼かされり  
して親王御記とて連たふらひのいふを頼かされり  
橋を親王御記とて連たふらひのいふを頼かされり  
あやぐれ次乃ち人をもととて連たふらひのいふを頼かされり  
とりとめを次乃ち人をもととて連たふらひのいふを頼かされり  
びしりたるを次乃ち人をもととて連たふらひのいふを頼かされり  
乃ち親王御記とて連たふらひのいふを頼かされり  
大分は親王御記とて連たふらひのいふを頼かされり

中

身存かこすは流川乃ち  
人乃親王御記とて連たふらひのいふを頼かされり  
うれ親王御記とて連たふらひのいふを頼かされり  
えのさりありては親王御記とて連たふらひのいふを頼かされり  
あやぐれ次乃ち人をもととて連たふらひのいふを頼かされり  
とりとめを次乃ち人をもととて連たふらひのいふを頼かされり  
びしりたるを次乃ち人をもととて連たふらひのいふを頼かされり  
乃ち親王御記とて連たふらひのいふを頼かされり  
大分は親王御記とて連たふらひのいふを頼かされり



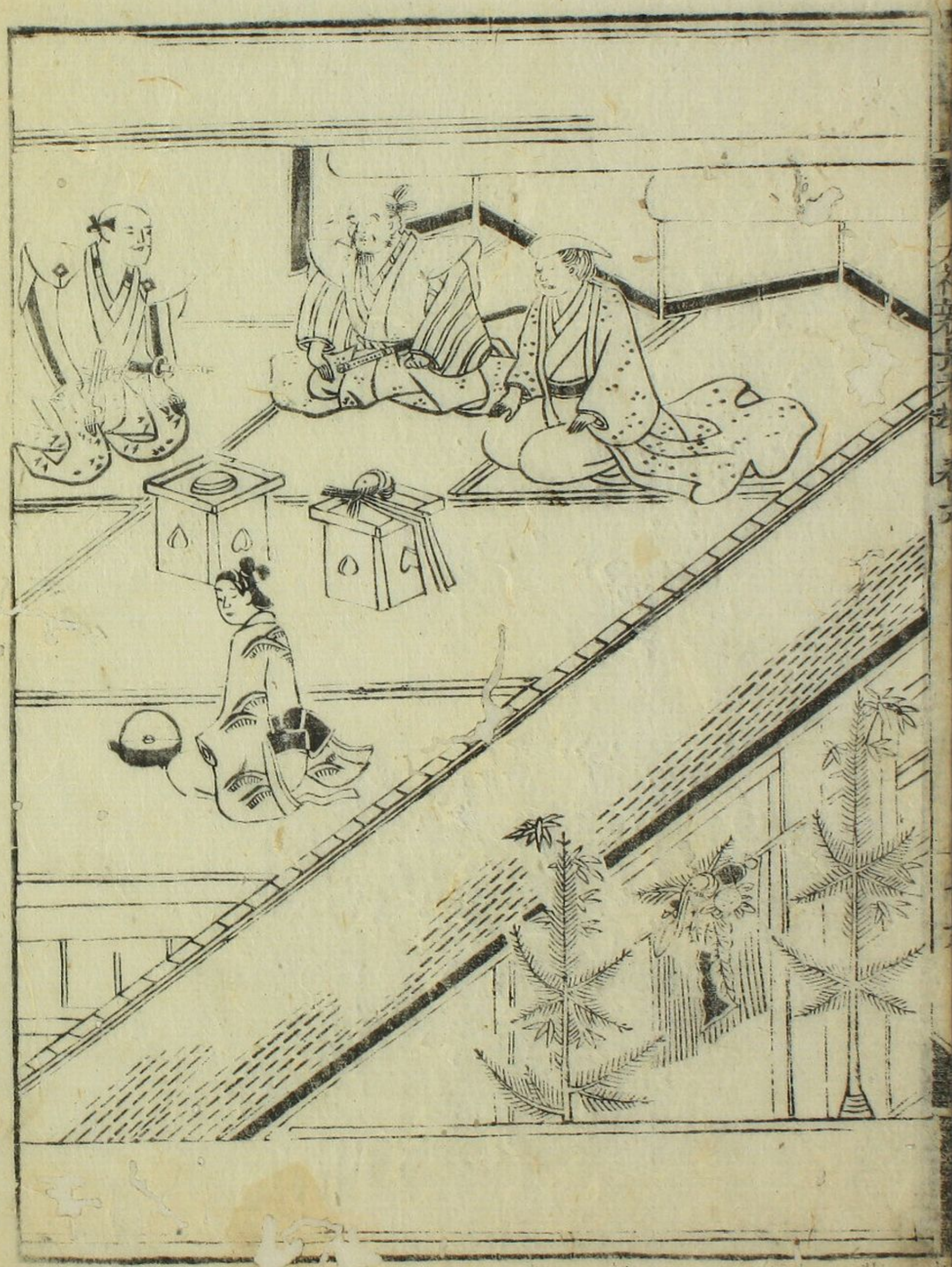








一箇片屋敷女





此係

人一代名義代

甚忠記

全解八冊

仁之部

義之部

礼之部

智之部

信之部

二条通慧屋所

全屋長共勝

板行仕以

京

書林

貞享五<sup>戌</sup>辰年正月吉日

大坂

書肆

北御堂之町

森田庄太郎刊板

